

高等教育における教員養成のためのサッカー授業の試案と検討

小澤治夫¹⁾・館 俊樹¹⁾・村松大介¹⁾・桜田和樹¹⁾・小林寛道²⁾・高橋和子³⁾・徐 広孝⁴⁾・中西健一郎⁵⁾

The approach and examination of the soccer class for the students applying physical education teacher in university education

Haruo OZAWA, Toshiki TACHI, Daisuke MURAMATSU, Kazuki SAKURADA, Kando KOBAYASHI, Kazuko TAKAHASHI, Hiroataka JO and Kenichiro NAKANISHI

Abstract

This approach and examination were aimed to design an effective teaching about a soccer class in university education. The subjects were students applying physical education teacher and they tried to practice the soccer class for carrying out effective teaching at junior high school and high school. As a result getting high evaluation from them, this approach indicated the possibility of appropriate class models.

Key words : physical education teacher, soccer class, effective teaching

I. 緒言

サッカーは1個のボールを用いてパスしたりシュートしたりして攻防を繰り返す球技であり、走る・跳ぶ・投げる・蹴る・捕るなどの技能を駆使した球技である。そのため高度な身体支配能力が求められ、小学校・中学校・高等学校の発育発達期にはその大きな発達が見込まれることから、多くの学校で体育授業・運動部活動・体育行事などで取り入れられている。

また、両チーム合わせて22人が1個のボールをめぐる無限に近い多様な場面の連続が展開されることから、一般的には「サッカーでは二度と同じ場面がない」とも言われている。例えば、選手AからBにボールが渡るケースを1と数えると。Aから他の10人に渡る可

能性は10通りある。このパスの回数が1回では10の一乗であるが、2回のパスでは10の二乗、3回では10の三乗となり、わずか3回のパスでもそのコースは1,000通りになる。したがって、サッカーにおいて効率よくパスが回りシュートまで至るためには、戦術の理解と習得が欠かせない¹⁾。

しかし、初等・中等教育現場では、足でボールを操るために高度な技術を要することもあって、こうした戦術学習は簡単ではなく、多くの教育現場におけるサッカーの授業では子供たちが狭いエリアでボールを追いかけるだけのゲームが展開されており、分習法としてのドリルやタスクゲームなどを系統だて行われないことが多い。

文部科学省による学習指導要領は、中等教

- 1) 静岡産業大学経営学部
〒438-0043 静岡県磐田市大原1572番地1
- 2) 静岡産業大学スポーツ教育研究所
〒438-0043 静岡県磐田市大原1572番地1
- 3) 横浜国立大学教育学部
〒240-8501 神奈川県保土ヶ谷区常盤台79-1
- 4) 筑波大学附属駒場中・高等学校
〒154-0001 東京都世田谷区池尻4-7-1
- 5) 東海大学国際文化学部
〒005-8601 北海道札幌市南区南沢五条1-1-1

1. Shizuoka sangyou university
1572-1 Owara, Iwata, Shizuoka
2. Shizuoka Sangyo University Research Center for Sport Sciences
1572-1 Owara, Iwata, Shizuoka
3. College of Education, Yokohama National University
79-1, Tokiwa-dai, Hodogaya-ku, Yokohama
4. Junior & Senior High School at Komaba, University of Tsukuba
4-7-1, Ikejiri, Setagaya-ku, Tokyo
5. School of International Cultural Relations, Tokai University
5-1-1-1, Minamisawa, Minami-ku, Sapporo-shi, Hokkaido

育における体育教材を、陸上競技・水泳・器械運動・球技・武道・ダンス・体づくり運動・体育理論の8つの領域で構成して提示しており²⁾、サッカーは上記の特性から戦術を学ぶゴール型の典型教材として扱われている。また近年は女子にも好まれるスポーツの一つともなっており、授業におけるより効果的な指導が求められている。

しかしサッカーのゲームでは、ボールそのものの移動が大きく、また人も多様に動くため運動量も多く体力や身体支配能力の向上のためには効果的なスポーツである。さらに、相手を抜き去ったり、逆に相手のボールを奪ったりする場面が目まぐるしく変わるため展開が早く、歓声が上がったり声援が送られる場面も多いため、体育の授業では「ゲーム」を多用するケースが多。そのため逆に系統的な授業が展開されないことが多くなってしまっている。こうした「サッカー」の試合を中心とした体育授業が多い要因の一つには大学におけるカリキュラムに問題があり、「サッカー」というスポーツ素材を料理して「サッカー」が有する運動特性・技術・戦術・コミュニケーションなどを練習方法を適切に指導したり、サッカーに関する科学や知識などの学習をしたりする科目が配置されていないことがあげられる。国立教育政策研究所ではこうした高等教育におけるカリキュラムの問題を改善するために「コアカリキュラム検討委員会」を設置し、検討を行っている³⁾。

そこで本研究では、高等教育現場におけるこうした問題を改善するために、効果的な指導方法を計画した授業を試行的に行い、検討を加えた。

II. 実施された授業

1) 対象者

対象はT大学体育学部在籍する男女30名であり、計7回の授業を実施した。本授業は2015年度と2016年度に実施されたが、本報告では2016年9月28日より2017年1月18日に実施された内容を中心に記載した。

2) 体育授業について

T大学では教員養成を目的として、学習指

導要領の前述の8領域のうちの7領域の実技を「学校体育実技A～G」という授業科目として学生に選択で履修させている⁴⁾。本研究では、「サッカー」と「バスケット」の2種目を二人の教員が7回ずつで交代する形のオムニバス形式で実施した。1単位時間は90分間である。授業者は競技者並びに指導者として50年以上のサッカーの経験者であり、なおかつ東海大学における「学生が選ぶよい授業」の報奨制度のティーチングアワードを二度受賞している教員である⁴⁾。なお、ペアとなったバスケットの指導者も同様に選手と指導者としての経験が30年以上にわたっている。

3) 授業過程

第1回はサッカー、バスケット合同授業、第2回から8回までがサッカー、9回から15回がバスケット

第1回 (9/28) : オリエンテーション (①授業の進め方②グルーピング③役割分担) 等

第2回 (10/5) : 基本の技術とその練習法、ミニゲーム

第3回 (10/12) : 基本の戦術とその練習法、ミニゲーム

第4回 (10/19) : 攻撃の基本とその練習法、ミニゲーム<自学自習>

第5回 (10/26) : 守備の基本とその練習法、ミニゲーム

第6回 (11/9) : クライマックスイベントとその作り方、模擬授業 (マイクロティーチング)

第7回 (11/6) : サッカーの科学

第8回 (11/16) : 球技のためのトレーニング、審判法

第9回 (11/23) : バスケットボールの特性の説明、基本技術

第10回 (11/30) : ルール・審判法、基本技術

第11回 (12/7) : フォーメーション、基本技術
第12回 (12/14) : 指導法① (マイクロティーチングによる模擬授業)

第13回 (12/21) : 指導法② (マイクロティーチングによる模擬授業)

第14回 (1/11) : 指導法③ (マイクロティーチングによる模擬授業)

第15回 (1/18) : 実技試験、まとめ

授業場所は、T大学の教室、サッカー場、総合体育館バスケットボールコート、総合体育館空きスペース（ギャラリ）などであった。

4) 準備

サッカーボール（50個）、ラダー（5連）、移動式ミニゴール（5セット）、ビブス（50枚）、セーフティーコーン（25個）、マーカー（50個）、テーブル、チューブ（50本）、ハンドマイク（1個）、ストップウォッチ（5個）、電子ホイッスル（5個）、副審用旗（5本）、サーパス距離計（1台）、ミニハードル（1セット）、メジャー（2個）

5) レポート、評価など

①サッカー班は第2時間目から8時間目に第2回から第8回のサッカーを受講、バスケットボール班は先に第9回から15回のバスケットボールを受講し、それぞれ7回受講したところでサッカー班はバスケットボール班に、バスケットボール班はサッカー班に交代する。

②毎回、レポートを作成し、翌日火曜日の13時25分（昼休み）までに15号館体育事務室前のボックスに提出する。

③評価：7回のレポート×5点+技術点5点+戦術ゲーム5点+学習指導案5点=50点（サッカー）

7回のレポート×5点+技術点10点+学習指導案5点=50点（バスケットボール）

なお、第1回（1時間目）は全員が一緒に受講

6) 第1回目の授業内容

1. 挨拶・教員紹介（山田・小澤）

2. 学校体育実技の概略（山田・小澤）

①目的：教育実習・教員採用試験対応

内容：練習の方法、学習指導案、マイクロティーチング、レポート

②評価：レポート+技術+戦術+学習指導案=50点（サッカー）+50点（バスケットボール）=100点

合格は60点、ともに30点以上可、欠課は5回以内可

③人数： $(40人+a) \times 2$ 種目 $\approx 80\sim 100$ 人

3. グルーピング

○4年・3年・2年・1年の順で優先

○2年までで80名を越えた場合は、1年生は受講できない

○2年までで70名の場合、約10名を抽選

○サッカー経験者、バスケットボール経験者を考慮する。男女比を平等とする。

※Aグループ：サッカー→バスケットボール

Bグループ：バスケットボール→サッカー

①サッカー経験者、バスケットボール経験者は前に移動

→半々ずつにグルーピング（A・B）

②残りの学生をA・Bに配分

4. 種目別の説明

①サッカー（小澤）

シラバス、レポート用紙、GK学習について、諸注意、班編成（4班）

役割：班長（1名）、副班長（2名）、用具係（6名）、記録係（2名）

②バスケットボール（山田）

シラバス、レポート用紙、諸注意、班編成（○班）

5. その他

Ⅲ. サッカーの授業過程

1時間目：on the ball skill（ボールを保持したときの技術）とoff the ball movement（ボールを持たない動き）、基本の技術（ボールジャグリング、ドリブリング、インサイドキック、インステップキック、ヘディング、トラッピング、フェイント）とその練習法、ミニゲーム

2時間目：1時間目の復習とドリル、1対1の攻防、基礎的個人戦術（look before, meet the ball, pass and go）、3人パス、3対1の攻防、4対2の攻防、ダイヤモンドのポジショニング、ミニゲーム（クアトロ）

3時間目：2時間目の復習、攻撃の組み立て（オープン攻撃、中央突破、DF背後への攻撃、アーリークロス、壁パス等）、ドリブルシュート、ヘディングシュート、パスからのシュート、PK練習、ミニゲーム（シューティングゲーム）、コーチングと声掛け（ナイス！ドンマイ！）

4時間目：3時間目の復習（シューティングゲーム）、守備学習の基本（クリアリング、カバーリング、ポジショニング）、ゴールキーパーの技術（キャッチング、パンチン

グ、パントキック)、PK合戦、審判法、ミニゲーム(3対2ゲーム)、指導法の基礎、模擬授業

5時間目: クライマックスイベント(開会式、閉会式、表彰式)、準備物(旗、賞状、アンプスピーカー、マイク、表彰台、大会規定、競技諸注意、記念撮影用カメラ、優勝カップ、トロフィー、キャプテン章、掲示板、ユニフォームまたはビブス、テント等)

6時間目: サッカーの科学(チームのシステム、無回転ボールの謎…マグナス効果・回転力と並進力・スクリューボール、GKを悩ますシュートとは、ゲーム中の運動量の変化、記録の取り方(動いた軌跡図・シュート数・得点シーン・ボールタッチ数等)、サッカー新聞を作る

7時間目: 球技のためのトレーニングとコンディショニング、トレーニング(SAQトレーニング、ラダートレーニング、コーントレーニング、マーカートレーニング、オーバースピードトレーニングとレジステッドトレーニング、チューブトレーニング、プライオメトリクス、サーキットトレーニング、インターバルトレーニング…5-10秒間欠のトレーニング、シザースステップトレーニング、コントロールテスト、パートナー負荷によるレジスタンストレーニング各種)、コンディショニング(Health Quality Control Sheet…HQCシート、Self-Check シート(SCシート)、コントロールテスト(30m走、コーントレーニング、キック距離、立ち5段跳び、メディシンボール投げ)、評価法

※諸注意

○雨天の場合は、順序を入れ替えて授業を実施する場合がある。

例) 3時間目に雨天の場合は6時間目(サッカーの科学)の内容を実施し3時間目の授業は4時間目に行う。7時間目が雨天の場合は総合体育館の空きスペースなどで実施する)

○雨天の場合は7号館1階の掲示板に連絡事項を掲示します。

なお、本授業を実施するにあたっては、小澤、山口、日本サッカー協会教本などの

提示したサッカーの練習方法等を参考にし、授業計画を作成した⁶⁻¹¹⁾。

IV. 授業実施結果

1. 授業レポート

授業中に適宜3分程度の記録時間を23回程度取り、受講学生に授業内容の記録を行わせた。必要に応じて学生にはカメラ記録も許可した。授業レポートは翌日昼休み終了時刻の13時25分までに体育学部事務室に提出させた。授業レポート例は図1.2.3.4のとおりである。また学生の撮影した授業風景例は図5.6.7.8のとおりである。



図1. ゴールキーパーの練習(一の手でキャッチ)



図2. ゴールキーパーの練習(二の手でキャッチ)



図3. ゴールキーパーの練習(体でブロック)



図6. キャッチング(男子)



図4. 練習を撮影



図7. クライマックスイベントとしてのサッカー大会と開会式1



図5. キャッチング(女子)



図8. クライマックスイベントとしてのサッカー大会と開会式2

2. 授業アンケート

最終回の講義の後に受講学生に授業アンケートを実施した。以下に学生（20人：①～⑳）のアンケートを記載した。

- ①校体育実技Eのサッカーの授業を通して、ポジションやフェイント攻め方などを学ぶことが出来て、それから日本代表の試合を見たときに「サッカーっておもしろいな」と思えるようになった。またチームで協力して沢山のミニゲームを行ったことで仲間とするサッカーに魅力を感じた。それと同時に、サッカーの授業で使えるテクニックや授業の進め方などとても参考になり、教員になれたとき試してみようと思った。自分が受け持つ生徒にも僕と同じようにチームでやるサッカーの楽しさを知ってもらいたいと思った。最後にO先生のような素晴らしい教員の授業を受けることが出来、とても幸せでした。今回学んだことを教員になる為に生かしていきたいと思った。7回の授業ありがとうございました。
- ②この授業では授業の作り方だけではなく、教員としての振る舞いや行動など大切なことを学ぶことが出来ました。実際にO先生のような授業を行いたいです。最初から出来るとは思っていません。ですが少しずつ、近づきたいと思っています。そしていつか追いつきます。短い間でしたがありがとうございました。
- ③影の立役者。表彰式の際、突然の涙。会長は言葉を詰まらせた。「君たちのような学生と最後の学校体育実技がやれてよかった。」と言うと最後は拍手で終わった。ほぼ全員が思ったであろう。「O先生だから、こんなに楽しくそして密度の高い学びができたのですよ！」と、O先生と出会った学時代から追いかけて続けるその背中を「K（学生の名前）」はこれからも追いかけていこう。
- ④授業を通して、サッカーの技術はもちろんのこと、教員としてどうあるべきなのか。O先生と見てたくさん学ぶことができました。本当に1回1回の授業が楽しくて有

意義な時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

- ⑤たった6回という短い時間で沢山の技や方法、テクニックを盗もうと励みましたが、まだまだ自分のものには出来ません。しかし学んだことを活かしていつか立派な保健体育教師になります！！ありがとうございました！！
- ⑥今大会を終えて、日本代表選手にインタビューしてみたところ、「この授業を8回しかなかったが、毎回毎回自分の上達が見えてどんどんのめりこんでいくものだったと思う。今までは毎回同じ楽しさであったので面白かった。また指導者がいい授業の雰囲気をつくり出すことが最も重要だなと感じた。クライマックスイベントがあったからチーム全体で夢中になってやれたと思うし、内容が濃かったと思う。そして、ゴールキーパーやディフェンスなどあまり知らないこともやり、その競技を自信もって行えるようになった。キャンパス間留学でちょうどO先生の最後の授業を受けられて幸せだなと感じた。
- ⑦サッカーの授業を通して、サッカーだけではなく授業を行ううえで大切なことをたくさん学べました。雰囲気もとても楽しくて毎回楽しみでした。学んだことをしっかり知識として取り入れていきたいです。遂に迎えた最終戦。お互い一勝一敗同士の両者。相手も経験者がいないため勝機はある。今までの経験を活かして開いたスペースにパスを通す、広いコートを使う、フェイントを入れたドリブルで相手をかかわす、シュートを積極的に撃つことの意識をして戦った。今まで以上に積極的に攻めたかいがあり、8-2で見事勝利を収めることが出来た。やはり勝った後のメンバーの笑顔はとても輝いていた。
- ⑨今日で最後のサッカー授業になってしまいました。今までの6回の練習で覚えたことを自分なりに、下手でもいいから挑戦してみようと思い、今日のTOKAI杯に挑みました。1,2回戦はサイドのポジションで出て、相手が攻めてくるのを技術がない分、

運動量で止めようと、コートをずっと走って得点できたことに満足しました。3回戦目はGKとして出場したのですが、自分はPK合戦のときにゴールを決められていたので、しっかり出来るか正直不安がありました。この試合では自分では驚くほど相手の動きがよく見えて、2本決められてしまったものの3連続セーブをする場面もあり、とても嬉しかったです。特に相手のコーナーキックからのヘディングで自分の上の通過しそうなボールをギリギリ片手で止められたときは、バスケで鍛えた反射神経が役に立ったのでよかったです。授業が終わったあとO先生から直接「ゴールキーパーよかったよ。MIPをあげてもよかったくらい」と言っていたことが嬉しく、休まずしっかり授業に出てよかったと思いました。O先生のT大での最後の授業を受けることが出来て自分は幸せでした。これからの将来に学んだことを活かせるようにしたいです！ありがとうございました！！

⑩今大会の会長でもあるO教授の会長挨拶の際、O教授の最後の授業に対しての評価を頂いた一幕である。我々学生と共に過ごした7回の授業において、かけがえのない時間を過ごし、我々学生にとって時に厳しくもあるが真摯に指導して下さった。O教授が我々学生に感謝の言葉を述べられた際、涙を流された。O教授の真剣な思いに触れた一幕であり、我々学生を大切にしてくださいましたことがひしひしと伝わってきた。我々学生は教員になる、ならないという未来に差はあるが、全7回の授業を通してO教授が示して下さった人としての在り方というもの日々実践していくことが最大の恩返しになるといえるであろう。

⑪サッカー最後の授業は大会ということで、とても盛り上がり楽しく行うことができました。それは開会式であったりユニフォームを着たり様々な工夫があってことだと思えます。自分が先生になったときに、このような楽しい授業が出来たら考えるとわくわくしました。もっと練習方法や技術、教え方などO先生から学びたいことは数多く

ありましたが、たった数回の授業でこれほどの知識と経験を得ることができたことは自分の財産になると思います。今後も学び続ける姿勢を持つ一流の教員を目指したいと思います。

⑫O先生短い間でしたがありがとうございました。もっとO先生の授業を生徒としてまた教員を目指す1人として受けたかったです。O先生はよく、「良い生徒」「良い生徒」という言葉を使います。O先生がどれだけ子どもたちのことを考え、子どもたちに愛情を注いでいるかわかりました。自分もO先生のように常に生徒のことを考え、愛し、良い授業が出来るように頑張ります。

⑬今回のサッカーは出来るようになるよりもいかに楽しむかやり方を学ぶかという所が出来たのでよかった。知識がついたような感じがする。また教師が気をつけることとサッカーだけでなく他のスポーツの時にとっても良い経験が出来、O先生の最後の実技を学ぶことができたり、知り合いが増えてとても良い授業が受けられて楽しかったです。

⑭小中高とサッカーの授業を受けてきたが、今回O先生のサッカーの授業が一番楽しく、上達できたと思う。細かい技術面からサッカーのシステム、ポジショニングなど実技的なことまでわかり易く指導してくれたので、とても理解することができた。またサッカーのことだけでなく、教員としてどうあるべきかなども、教えてくださり、たくさんのことを学ぶことが出来た。今回学んだことをこれからどんどん生かしていきたいと思う。

⑮音楽がかかり、ユニフォームが並べられた会場できちんと整列した各チームと旗を持って入場するとき、すごくワクワクし、楽しくて仕方がなかった。先生がこういう環境を提供してくれたことが生徒はこんなにも楽しく授業を受けられるのだと感じた。今までの6回。きちんとメリハリを持ち、コンプライアンスを守り楽しくやってきたことだからこそできたことだと思う。

自分もどの教科でも他種目でもこのように楽しい授業を展開できるようになりたいと思いました。最後感動しました。ありがとうございます。

- ⑯楽しかったサッカーの授業があつという間に終わってしまいました。今までサッカーの授業を受けてきてこんにも中身が充実していて、知識も深まった授業は始めてでした。時には本物に触れながら、生徒たちの今まで聞いたことのない扉を開かせ、考えたり挑戦してみたり、理解したりさせることがものすごく大切だと感じました。自分自身、O先生の最後の実技の授業を受講することが出来て本当によかったです。先生の体育・スポーツに対する熱い想いを責任もって自分が発信できるよう、教員を目指して生きていきます。ありがとうございました。
- ⑰私は今までサッカーはできないとか苦手というイメージがすごくあったけれどそれは自分が勝手に決め付けていただけなんだと思いました。たった6回くらいしか授業をしていないのにサッカーの技術など身につくものがたくさん学べました。それをO先生の下で学ぶことができると本当によかったと思います。先生から学んだことをこれからの自分に活かしていきたいです。そして私と同じようにできないとか嫌いというイメージがある子に対して「楽しい！」とか「これ少し出来るようになったかも」という嬉しさを感じてもらえるような授業を作っていきたいです。短い間でしたが本当にありがとうございました。
- ⑱男の目には光るものがあつた。今年で後期満了となるO氏。選手以上に特別な想いがあつた。大会終了後閉会式、言葉に詰まるいつもとは違う会長。涙ながらに話した5分間。選手は何を学び、何を感ずったのだろうか。今後の去就について多くは語らなかったが、私の心には「最後」という2文字が心に刻まれた。また学びたい。その気持ちとは裏腹に過ぎていく時間。選手たちにとっても私にとっても一瞬と思えるほど時間ははやく流れてしまった。寂し

いことだが、選手たちは学んだことをしっかり頭に入れて今後活かさなければならぬ。いつか胸をはってこう言いたい。「先生！僕の授業どうですか？最高でしょ、と。」

- ⑲こんなに楽しいサッカーの授業は生まれて初めてでした。今まで学んできた授業の内容が全部活かされたゲームが出来ていたのではないかと思います。また閉会式のときに「もっとやりたかった」という気持ちが残ったのと共に、この大学に来て、この授業をとってよかったなと思いました。この経験を今後も自分の中で料理していき、より多くの人たちにスポーツの素晴らしさを伝えていきたいと思っています。また体育が苦手な子達に苦手だから評価が下がるというものではなく苦手でも指導者がその子が活かせる能力をさがしだし、手を差し伸べれば苦手でも好きと思える瞬間はたくさん作れるということがたくさん気がつくことが出来た授業でした。工夫ひとつで何でも変えられると心と体知ることが出来たので1人では多くの人にこの気持ちが伝わるように工夫できる人になりたいです。ありがとうございました。
- ⑳この7回の授業を通して色々な角度からサッカーの楽しさを知ることが出来た。ボールを実際に扱う技術、ボールを持っていない人の動き方、DFのポジショニングや声掛け、ゴールキーパーのフォーム、ゴールの運び方、そして今日やった本格的な試合の運営など、ただサッカーの技術じゃなくて、それ以外に楽しさを見付け、より学習が深まったと感じた、足でボールを扱うスポーツは苦手意識を持っていたが、その都度に言われるポジションを素直に実践すれば上手くいくし、その喜びを感じサッカーが大好きになった。こんなに楽しいスポーツを色々な角度から教えてくださりありがとうございました。良い生徒に恵まれたとおっしゃっていましたが、そのように導いているのだと感じます。勢いがあり、活気がある授業は、勢いがあり、活気がある先生からということを学びました。

V. 結語

保健体育教員を目指す体育系学生のためのサッカーの実技授業を試案として実施した。その結果、学生の評価に見られたように本試案は高い評価を得ることができ、今後の授業モデルとすることの可能性が示唆された。

【参考・引用文献】

- 1) 小澤治夫：高校生のためのスポーツサイエンス～高校生のサッカーでパスが10本通ったらほとんど奇跡～、保健体育教室、第1号、p.23、1998
- 2) 文部科学省：平成21年改訂高等学校学習指導要領、2009
- 3) http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/126/shiryo/1384154.htm
- 4) 東海大学入試広報課：東海大学体育学部体育学科案内、2-15、2017
- 5) 東海大学教育支援センター：Tokai Teaching Award～学生の授業アンケートから選んだいい授業～、p.6、東海大学、2011
- 6) 小澤治夫・山口隆文：サッカー、ステップアップ中学体育、大修館書店、pp.150-167FA、2011
- 7) 小澤治夫：ミニサッカー、これは簡単！ボール運動、学事出版、pp.114-127,1997
- 8) 山口隆文：サッカー、ステップアップ高校スポーツ、大修館書店、pp.142-161、2016
- 9) 日本サッカー協会：サッカー指導教本、ゴールキーパー、JFA、2013
- 10) 日本サッカー協会：サッカー指導教本 JFA公認C級コーチ、JFA、2016
- 11) 九州高等学校体育連盟サッカー専門委員会（1988）一橋出版

